２０２６（令和８）年度市政懇談会　開催結果概要

●日　時　令和８年７月１５日（水）午後５時３０分～
●会　場　音別町コミュニティセンター　研修室１・２・３
●出席者　１４人

〔市長より説明　（別途資料参照）〕
（１）釧路市の財政状況及び事務事業の見直しの今後の取り組みについて
（２）釧路短期大学の公立化について
（３）北陽高校移転の検討について
（４）音別地区の取り組みについて
（５）令和８年度市の主な取り組みについて

●質疑応答
【参加者Ａ】
　公共施設の利用料見直しについて、釧路・阿寒・音別地区それぞれの地域性を加味して見直しをしているのでしょうか。特に林業研修センターは、町内会の会合や選挙の投票会場など、町の活動拠点として使っており、代替施設は約１．５ｋｍ離れているため、高齢者が多い地区では重要となる施設です。市の方では町内会への参加を呼び掛けていますが、こういった町内活動を行う施設も見直しの対象となってしまうと、活動自体が縮小傾向になってしまうと思われます。

【財政部長】
　公共施設の見直しについては、建物の老朽度や使用状況などを加味しながら全市的に見直しを進めています。現に利用者がいる施設については、その施設をなくした場合、代替機能を持った施設があるのかどうか、また、その代替となる施設を実際に利用する事ができるのかということも含めて見直しを進めています。令和９年度から見直しをするといったことではなく、慎重に進めなければならないものであることから、代替施設の有無も含めて今後検討していきたいと思います。

【市長】
　施設については閉鎖ありきではない形で協議を行っています。一方で、老朽化した施設は耐用年数等が決まっており、利用者数も音別町では減少傾向にあります。林業研修センターについては視察させていただきましたが、非常にいい施設であり、施設をすぐ廃止したくないという思いは確かにそのとおりであると思います。一方で、利用実態が町内会中心になっているという面もあり、地区会館等を持って運営しているほかの地区と同程度の負担をお願いするかもしれないです。まだ検討段階ではありますが、皆さんに負担をかけないようにアイデアを出しつつ、使える施設についてはなるべく使うという方向で進めていきたいと考えています。

【参加者Ｂ】

ふるさと納税についてですが、近隣の白糠町や根室市が桁違いの寄付額を出している中で、目標額を昨年の実績から３億円しか増やさないというのはおかしいと思います。目標としている３０億円を達成したら、市の職員は「もう仕事がないから定時で帰ろう」ということになりかねないです。市長自ら３～４倍の目標を掲げるといったことをしなければ士気が上がらないと思います。経費として１３億円もの費用が発生するのであれば、高い目標を掲げて大事に使ってほしいです。

【市長】

まず、ふるさと納税の仕組み自体が総務省から経費の５０％以内と言われており、例えば、思い切った予算組をした結果、３０億円しか達成できなかったということになると非常に良くないことになります。そういう背景もあり、まずは今年度２７億円という目標を掲げたうえで、１３億４，０００万円の経費をかけて進めているところです。

昨年の寄附額は過去最高額となり、さらに上を目指していくため、中間事業者の変更や商品の見せ方を変更するといった地道な努力を重ねているところです。近隣自治体も１年で実績を築いたわけではないので、しっかりと見習うところは見習いつつ取り組んでいきたいと思います。

【参加者Ｃ】

釧路短期大学の公立化について、すごく良いことだなと思いました。釧路市に高等教育の学校がなければ、まち全体が低迷していくような感じがあり、地区の発展には欠かせないものです。雇用の面でも、保育園の先生が足りない現状があるので、少しでも卒業生が定住していくことは非常に意義のあることだと感じています。

同時に、既存の学科をそのまま公立化するだけでなく、新設の学科を作らなければならないと思っています。例えば介護職員がものすごく減少して、各施設では大変な状況に陥っていることはご存じかと思いますが、介護学科を増やさないというのは、くしろせんもん学校で養成しているからなのでしょうか。

【総合政策部長】

昨年４月に、釧路短期大学が令和８年度からの学生募集を中止することになり、それを受けて間を空けずこの機能が継続するようにといろいろ考えていただきました。その中で、釧路短期大学の機能をそのままに、経営者を変更する手続きである設置者変更を行い、釧路公立大学短期大学部という形で進めています。

学部については、現状としては公立化以前の科目、学科を継続する形で進めているということになります。明確にどういったことができるかというのは現状お話しできるものはありませんが、今後どういった形で市内の高等教育機関を維持していくかについては重要な課題であると考えているので引き続き検討していきたいと思います。

【参加者Ｃ】
　学費については、公立化により安くなるということでしょうか。

【総合政策部長】
　学費については、地方交付税措置によって運営費が一部補填される面もあり、公立化によって設置者変更前より少なくなります。

【参加者Ｄ】
　補助金の見直しについて、音別に関連したものではどのようなものを対象として想定していますか。

【財政部長】
　まずは全ての補助金を対象とし、人件費に相当する部分があれば人件費を除いた上で１０％を減額するということを基本に検討しています。検討の結果、影響が大きい部分や見直しが難しいものも出てくる可能性はありますが、基本的には全ての補助金を対象に検討しています。

【参加者Ｄ】
　例えば、音別では新たに起業する際に利用できる地域振興に関する補助金があったかと思いますが、そういったものを一律でカットするといったことはせず、地域に合わせた見直しというものを検討してほしいです。

【音別町行政センター長】
　おっしゃっていたのは特産品開発補助金のことと思われますが、この補助金についてはこれまでの利用状況や経過等も踏まえて、今年度いっぱいで廃止する流れになっています。

【市長】
　先ほどの説明事項の中にもありましたが、地域おこし協力隊などの国の支援に基づいた手厚い事業を展開していく可能性はいろいろと検討しています。

【参加者Ｅ】
　内部管理事務事業の見直しや廃止、歳入の自主財源の確保と明示されているが、今後の収支見込みの中で、令和７年度決算に比べて令和８年度決算見込みが歳入・歳出ともに増えています。令和８年度歳入については、見込み額が令和９年や令和１０年度と比較して多くなっているが、この理由は何でしょうか。住民に求めるものは求めるとするのであれば、自主財源・歳入を今以上減らせないような形で、数字の試算を立てられれば差し引き収支は少なくなると思われます。

【財政部長】
　歳入については、物価高騰対策に伴う国の交付金等が含まれるため、年によって上下して見えます。令和９年度以降については、市税や国の交付税の伸び率を加味し、プラスに見積もっていますが、物価高騰や人件費の高騰に

より市税の伸びを上回っていくという状況があり、差し引き収支が徐々に悪化していく見込みです。この赤字幅を縮小させていくため、将来的に財源確保を目的とした新たな取り組みが必要になるので、しっかりと財政運営に取り組んでいきたいと考えております。

【市長】
　使用料・手数料の見直しについては申し訳ないと思っています。しかしながら、物価高騰に伴う光熱費の上昇などは、会館の運営などに大きく影響を与えることから、一部使用料・手数料を上げるという感覚です。加えて、人口減少が激しく、将来的には水道料金などにも影響が出てきます。そういった影響を何とか抑えていくために、施策として展開しなければいけない部分はしっかりやっていかなければならないと思っているので、少しずつ負担がかかってしまうかもしれませんが、ご理解をいただきたいです。

【参加者Ｄ】
　津波タワーの件について、説明会のときにいろいろ要望した件はかなり改善していただいたと思います。追加の要望になりますが、衛生面の観点で、例えば、ノロウイルス感染症やＯ－１５７、インフルエンザなどの感染症に罹患した患者が避難した場合に隔離する必要があるため、隔離部屋を作っていただきたいです。避難室の壁の間に部屋で使えるようなトイレを少数でいいので設置していただきたいです。

【総務部長】
　これから設計に入る海光の避難場所については、今の意見を参考にしつつ設計を進めていきたいと思います。中園の避難場所については、今年の秋口から工事が着工というところでなかなか難しい現状があります。避難訓練等をしながらどういう対応ができるかというのを、地域と一緒に進めていければと考えています。

【参加者Ｃ】
　避難場所のプライベートな空間を仕切るため、折り畳み式の個室や段ボールベッドなどがあると思いますが、そういう中身の部分についてはこれからの議論で決めていくのでしょうか。また、医薬品等の備蓄についての体制についても伺いたいです。

【避難対策調整主幹】
　中園２丁目の避難場所については今年の秋口から工事に入っていきますが、基本的にあくまで一時避難の建物として設計されており、中長期暮らす避難所とは全く違うものです。その中で、健康な方と病気の方がいらっしゃったときの避難室を分けることを考えています。それ以外の部屋として、更衣室などのプライベート空間を用意しています。それ以外にも、プライベート空間等が必要ということであれば、訓練の中でどうしていくかを考えていきたいと思います。備蓄については、釧路市全体の話になりますが、命を守るための一時避難場所には原則置いていません。自助として、避難者自身で水や

食料、薬などを用意して避難してくださいとお願いしています。もちろん、一時避難場所で生活することはできないので、避難後は、自衛隊のヘリコプターなどで移動し、浸水しない別の場所に設置した避難所で中・長期生活していただきます。

【参加者Ｃ】
　災害の程度にもよると思いますが、一時避難する期間については何日程度を想定していますか。

【避難対策調整主幹】
　想定については、５～６千年前を遡って１番大きい津波が来たときの想定で行っています。いつ津波が引くのかという具体的な数字は、国や道の方でも示されていないため、釧路市独自で考える必要がありますが、東日本大震災の際、一番時間がかかった地域で大体２日弱であったことから、長くなったとしても２～３日間というところで想定しています。今回のタワーについても、非常用発電機を用意していますが、冬場の避難では暖房が必要になることから用意したものであり、３日間耐えることができるように設計しています。繰り返しになりますが、備蓄についても３日程度分を想定して持ってきていただきたいです。

【参加者Ｂ】
　市役所のヒューマンエラーについて、書類上の個人情報や記載内容の誤りなど、半年で６件もあったのを新聞で目にしました。市側は対策として「今まで１人でやっていたところをダブルチェックにします」という回答をしていますが、例えば、エクセルの書式設定等を用いるなど、根本的なシステム化をしていかなければならないと思います。予算をかけてでも、ダブルチェックに頼らずミスを防げるようなシステム化を検討するべきです。６か月で６件というミスは多すぎます。

【市長】
　単純な封詰めのミスなど色々なミスが増えてきています。大事な個人情報を取り扱っているので、そういったミスがないように今後いただいたご意見を参考にしながら取り組んでいきたいと思います。

【参加者Ｄ】
　避難所について、トイレが上下に設置されていますが、総務省の提言として、女性の方のトイレを増やしてほしいという話が出ていますので検討してほしいです。
　馬主来の太陽光発電施設について、馬主来の土地は競売にかけられて現在仮契約の状況でありますが、その土地に存在している立木は釧路市の所有物です。登記はしていないものですが、例えば、太陽光発電事業者に売り渡ししたときに、その土地にある立木の登記も可能と思われますが検討していますか。

【音別農林主幹】
立木についてはすでに看板で所有権を主張しているところではありますが、所有者が代わる度に、立木は釧路市の所有物であるということは説明しており、現在の所有者にも承知いただいています。登記の関係については調べさせていただきたいです。

【参加者Ｄ】
人口減少について、音別も人口が１，４００人を下回ろうとしており、いかに人口を増やしていくかということが重要です。特に、子どもがいなくなったら、学校がなくなり子どもが住めないまちになるので対策を考えなければならないです。公営住宅はかなり空いており、国土交通省も公営住宅の弾力的な活用を促進していることから、例えば、若い夫婦に関しては２万円補助するといったことを検討してはどうでしょうか。釧路市全体に言えることではありますが、若い方の定住促進を目的とし、音別地区に関しては無料でもいいと思うので住居費を補助するといったことを行ってほしいです。

【音別町行政センター長】
公営住宅の使い方に関しては、目的外使用を含めて検討を行っています。具体的な家賃の補助については、いただいたご意見も踏まえて、どのようなことができるかというのを検討していきたいと思います。

【市長】
阿寒と音別の義務教育学校化は存続を前提に行ったので、学校の方は心配しないでいただきたいです。一方で、子どもの数がどんどん減っているというのは事実であり、教育事業の一環として音別と徳島県那賀町鷲敷の中学生で交流事業などを行っています。公営住宅の目的外使用については、民間企業等とやり取りをしつつ、一歩一歩だが対応を進めています。実際に補助を行っても定住に結び付くかどうかという点がなかなか見えないところもありますが、阿寒・音別地区に特化したような施策というのを今後しっかり検討していきたいと思います。施設についても、利用者増だけではなく、音別地域全体がプラスになるようなアイデアをいただいて、活用方法を考えていければと思っています。

【参加者Ｅ】
昨年度発生した音別川と尺別川の水害について、担当部署においては発生以降、懸命な努力をされて対応にあたったと思いますが、尺別川は鉄砲水によって門や橋のたもとがえぐられており、応急処置的なものが町内各所で見られますが、それらを除いた要望対策、については、道や国に対策を要望された経過はありますか。

【都市整備部長】
２級河川は北海道管理ということになっているため、維持管理や整備等についても道の方で所管しています。その上で音別川については、基本整備が終わっているため今後の整備はおそらくないと思われます。ほかの河川等に

ついては、今回の大雨の状況も踏まえた中で、一部堆積土砂等が見られる場所の浚渫等については、堆積の状況等の調査も含めて、建設管理部に状況をお伝えしながら対応策を考えていただく形になるかと思います。

【参加者Ｅ】
　過去に台風でキナシベツ地区の国道３８号線とＪＲ根室本線が通行止めになった経過がありますが、その際には対策として、一部反対の声もあったが川底の底ざらいを行い、結果として川の流れがスムーズになりました。堤防の設置等よりも川底の底ざらいを積極的に行ってほしいです。

【都市整備部長】
　お話されている箇所はわかりました。その箇所の下流部はかなり海に近く湿原に近い土壌もあるため、具体的に何センチ埋まったら行うという話は難しいですが、川の流れを阻害しないということが第一であるので対応策を検討していきたいと思います。

【参加者Ｂ】
　懇談会なのに時間が決められているため質問ができないことがあります。昨年、出席者が決まった時点で資料を先に送ってもらい、市側の説明を短くすることで質問の時間を長くとれるようになるという提案をしましたが、今回もまた同じことをやっています。話し合うために集まっているのだから来年度は考えてほしいです。

【総合政策部長】
　資料について、今年度は開催前に市ホームページの方に掲載しています。説明についても、昨年ご意見いただいたことを踏まえて短くしていますが、結果的に長く感じられたかもしれないです。時間配分については今後の検討課題とさせていただきたいと思います。質問時間については、たくさんの方にお話しいただきたいと思っているため、ご理解いただければありがたいです。